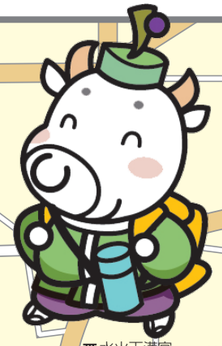
令和4年度 上京区民

ふれあい史蹟ウォーキング

～1200年の目撃者、御所西一条界隈をゆく～

2022.11.23



地図の見方

- 博物館·美術館
- 石碑
- 商店街
- 公衆トイレ
- 学校
- 警察署·交番
- 消防署
- 郵便局
- 寺院
- 神社
- 史跡
- 教会
- 緊急病院
- その他の施設
- 信号
- JR
- 地下鉄
- 京阪

浄福寺

現在地に伽藍を構えたのは、1615年とされる。二十五菩薩来迎図などの寺宝を持ち、当時の奥行き制限により、外見を二棟に見せかけるなどの工夫を凝らした本堂が珍しい。浄福寺通側の赤い門から「赤門寺」、また、かつての所在地から「村雲寺」とも呼ばれる。

1788年の天明の大火の際、火の手が門まで迫って来た時に鞍馬から天狗が舞い降りモチノ木の上から大団扇で火をはね返し、類焼を免れたとの伝承から、天狗が祀られている。

幕末には西郷隆盛が引き連れて来た数百名の薩摩兵が寝泊まりしていた。

名和児童公園

一条院跡

平安時代中期、東三条院（藤原詮子。円融天皇の女御、一条天皇の母、藤原道長の姉）に献上された。東三条院が一条天皇の御所として修造し、999年の内裏焼失後は一条天皇の里内裏となった。一条院の西側1町を御所、東側1町を財政や物資の調達を担当する別納とした。別納には道長·中宮彰子父娘の直盧（宿泊所）が設けられた。ここには、彰子に仕えた紫式部や当時の文化人が集まった。

名和長年戦没遺跡

名和長年(長高。生年不詳～1336年)は、南北朝時代の武将。伯耆国名和湊（現在の鳥取県西伯郡大山町）を領有し、日本海沿岸の商業活動によって富を蓄える。1333年、隠岐から脱出した後醍醐天皇を船上山に迎えて幕府軍の攻撃を退けた功により、「年」の字と家紋を与えられた。この後、建武政権下では、天皇の身辺警護に当たるなど重用されたが、建武の乱(1336年)の大宮通一条の合戦で討死。

公園内には、「名和長年公殉節之所」と刻まれた石碑などがある。

石碑前の石柱に刻まれた帆掛け船の家紋

賀茂祭と一条通

平安時代を代表する賀茂祭(現在の葵祭)では、奉幣使を中心とした行列が内裏から大宮通を北上し一条大宮を東へ、斎王の行列が賀茂斎院から大宮通を南下し、一条大宮を東へと一大パレードを繰り広げた。一条大宮から一条東洞院にかけて、貴族から庶民にいたる見物人で溢れ、道路の両側には「桟敷」がぎっしりと建てられた。一条大路は、儀典都市·平安京に欠かせない巨大な祝祭空間だった。

室町通

平安京の室町小路にあたる。1378年に室町幕府三代将軍足利義満が、今出川室町北に「花の御所（室町殿）」を構えたことから、「室町幕府」や「室町時代」の由来となった。

応仁・文明の乱(1467年～1477年)の後、京都の市街地は上京と下京に分かれるが、室町通はこれを結ぶ唯一の道だった。

一条札の辻

室町時代末から江戸時代初期、一条室町は一条札の辻と呼ばれ、京都の代表的な人の集まる高札場(※)だった。本能寺の変の直後には、明智光秀が町人を集め、地子銭免除を伝えた。

17世紀末頃までの京大絵図では、一条札の辻を起点に京都や近郊の名所までの距離が記載されていた。(江戸時代中期以降、起点は三条大橋西詰に移る。)

※幕府や領主が決めた法度や掟書などを木の板札に書き、人目をひくように高く掲げておく場所。

一条通

平安京の北端を区切る幅約30mの大路。平安時代初めから右京が衰退、左京では北へも市街地が広がり、平安時代末から鎌倉時代には、左京一条通界隈が京都北部の中心地となる。

室町時代になり足利義満が今出川室町北に「花の御所（室町殿）」を構えたことから、上京の中心地は室町上立売へと移行。応仁・文明の乱(1467年～1477年)により、上京は荒れ果て治安も悪化、1568年に織田信長が入京するまで構（かまえ）で囲まれた狭い範囲で人々が生活する時代が続く中、上京総構のすぐ内側に位置する左京一条通は、人口として活力を取り戻す。

豊臣秀吉により寺院が寺町通沿いに強制移転させられたことや、公家屋敷が現在の京都御苑の地に集中させられたことから、烏丸一条以東の一条通は消滅、以西界隈に生まれた多くの空き地の一部は武家屋敷に、それ以外は禁裏や公家御用達の商人や医師、文化人が多く住まうエリアに変貌を遂げる。

富岡鉄斎旧宅跡（室町通一条下ル東側）

富岡 鉄斎（1837年～ 1924年）は、明治・大正期の文人画家、儒学者、神官。日本最後の文人と謳われる。青年期には太田垣蓮月の学僕として住み込み、その薫陶を受ける。また、1888年から1893年まで車折神社の宮司を務めた。

1882年から1924年までこの地で起居し、幾多の大作を生み出した。現在、その旧宅を再生保存し日本文化を発信する施設が建設されている。

一条鳥丸北～一条西洞院北

鎌倉時代初期、東から今出川殿、一条東殿、一条西殿(※)と西園寺公経ゆかりの邸宅が立ち並んだ。公経は源頼朝の姪を妻とし、親幕府派貴族の筆頭とみられたため、承久の乱（1221年）では、後鳥羽上皇側に逮捕・拘禁された。

幕府が勝利すると、公経は内大臣を経て太政大臣となり（1222年）、摂関をしのぐ権勢を誇る。その後西園寺家縁戚の邸宅が立ち並ぶこの地域は上京の中心地となり、街並みも急速に北へ発展した。

※一条東殿、西殿は、源義朝の娘坊門姫（頼朝の同母姉妹）を妻とした一条能保の屋敷。公経は能保の娘全子を妻としたことから迎え入れられた。九条良経と能保娘の間に生まれた九条道家が公経の娘掄子を妻としたことから伝領。今出川殿は鎌倉時代西園寺家の代表的な邸宅。

一条戻橋にまつわるエピソード

★漢学者三善清行の葬列に子浄蔵が駆け付けた際、清行が一時蘇生した。（918年）

★武将渡辺綱が鬼女と遭遇し、腕を切り落とした。（1000年頃）

★安倍晴明は一条戻橋の下に式神を封じ、使役していた。（1000年頃）

★建礼門院（平徳子）の出産時に橋占をすると、童子が子安徳天皇の将来を予言した。（1178年）

★百鬼夜行に出くわした侍が、唾を吐きかけられ、透明人間になってしまった。

★豊臣秀吉により処刑された千利休らがこの地でさらし首にされた。（中世末期）

★嫁入り前の女性や縁談に関わる者は「戻らない」よう、この橋に近づかないようにした。

小川（こかわ）

古代より、堀川の東から一条通で曲がり堀川に合流する川。上御霊神社と今宮神社の氏子圏の境界線であり、応仁・文明の乱(1467年～1477年)では東軍と西軍の境界となり激戦地であった。また、15世紀から16世紀にかけてこの川沿いが京都で一二を争う繁華街であり、元誓願寺通から一条通にかけては、誓願寺や知恩寺、行願寺が立ち並び賑わった。1963年に暗渠化されたが、痕跡が所々に見られる。

誓願寺・浄土宗

清少納言や和泉式部が帰依し、女人往生の寺といわれた。13世紀には元誓願寺通小川辺りに移転。1591年に豊臣秀吉の命を受けて現在地に移転。落語の祖安楽庵策伝は誓願寺55世。

知恩寺(百萬遍知恩寺)・浄土宗

1331年、後醍醐天皇の勅を受けた第8世善阿空圓が念仏百万遍により京都に蔓延した疫病を収めたことから「百万遍」の号が下賜。1382年に現在の相国寺の辺りから一条小川に移転、1592年に豊臣秀吉の命を受けて寺町荒神口に移転、1662年に火事により現在地に至る。

行願寺(革堂)・天台宗

1004年、行円が一条小川に復興して行願寺と名付ける。1590年に豊臣秀吉の命を受けて寺町荒神口に移転、1708年の宝永の大火後に現在地に移転。中世上京の町衆の結集場所であった。なお、下京の結集場所は六角堂。

京都御苑地域

平安時代、藤原氏一門を中心に多くの公家邸宅が立ち並んだ。特に道長が権力を握った995年から1028年には道長所有の土御門殿、枇杷殿が里内裏となる。以降、院政期、鎌倉時代、室町時代と時々の権力者の本拠地は移り変わり、また朝廷、公家の力も衰えていくが、京都御苑地域は、土御門東洞院殿(1337年に北朝の光厳上皇が皇居と定め、以後土御門内裏として定着)を中心に公家・武家の邸宅地だった。

応仁・文明の乱(1467年～1477年)により荒廃。土御門内裏も修理もままならない状況で周辺も閑散とした状況が続くが、1568年に織田信長が入京して以降、信長と豊臣秀吉による内裏改修、秀吉の政策により公家屋敷の集中する地域になり、江戸時代にもこの政策は引き継がれ、1708年の宝永の大火後には公家町の拡張と集中が行われた。

明治の東京奠都に伴い、公家の大半は東京へ移転し荒廃、その後現在の国民公園となる。

主催：上京区民会議　共催：上京区役所（地域力推進室 TEL：441-5040）　編集：東陣プロジェクト実行委員会　豊田 博一